

NPO 法人アルペなんみんセンター

2023 年度 事業報告書

(2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日)

はじめに

世界で避難を強いられた人々の数は、ミャンマーやアフガニスタンなどの紛争に加え、ウクライナ危機で急増し、2023 年 6 月時点で 1 億 1,000 万人を超えました (UNHCR 情報)。

新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、国際的な移動制限が緩和され、日本に庇護を求める難民も急増しています。2023 年、日本の難民認定申請者数は前年比 266% 増の 13,823 人に達しました。難民と認定された者は 303 人と、過去最大でしたが、十分な保護を受けられない難民が依然として大勢おり、路上生活を余儀なくされる人々も少なくありません。

このような状況の中、難民認定申請者を受け入れる難民シェルターとして設立された当センターでは、これまでに 26 か国 81 人を受け入れてきました。2023 年 4 月には、東京・小金井市のカトリック教会の女子修道院の一部を借りて、アルペ小金井センターが開所されました。

難民や避難民に寄り添う取り組みは地域社会に受け入れられ、様々な交流を通じた相互理解が進んでいます。異なる背景や属性を持つ人々と地域住民が共に喜び支え合い、共生社会を築く取り組みが進んでいます。

自治体との連携や協力も拡大しており、2023 年 5 月には神奈川県やかながわ国際交流財団とウクライナ避難民に関する連携協定が締結されました。同じく 6 月には、UNHCR が自治体との連携を強化するグローバルキャンペーン「難民を支える自治体ネットワーク」に鎌倉市が署名しました。鎌倉市内の様々なステークホルダーが参加する「鎌倉なんみん共生フォーラム」とも連携し、難民を歓迎する社会づくりに取り組んでいます。

国際的な難民支援ネットワークにも参加し、定期的に現状を把握して意見交換を行っています。2021 年のミャンマー国軍クーデター以降、多くの内部避難民や難民が発生しているため、今後の支援方法についてネットワークを通じて検討していきます。

1 難民への定住支援事業

(1) 緊急シェルターの提供

2023年度実績	実人数 47人	新規入所者	32人	延べ滞在日数	10,749泊
2022年度実績	実人数 32人	新規入所者	21人	延べ滞在日数	7,698泊
2021年度実績	実人数 20人	新規入所者	13人	延べ滞在日数	3,519泊
2020年度実績	実人数 15人	新規入所者	15人	延べ滞在日数	1,857泊

* 2020年度からの新規入所者数 累計 81人 (26カ国)

* 2023年度 実人数 47人

2020年から継続3人、2021年度から継続2人、2022年度から継続10人

* 平均滞在日数 229日間 (2020年からの継続含む)

* 最長滞在日数 1,277日間 (2020年からの継続含む)

難民が安全で安心できる住居の提供

施設内には40の個室があります(鎌倉に30室、小金井に10室)。入居者の通信手段を確保するために、スマートフォンを提供し、施設内では常時Wi-Fi接続が可能です。



食事の提供

1日3食の温かい食事を提供しました。調理担当スタッフを中心に、多くの調理ボランティアの支援を受けています。食材の提供には、支援者や近隣の農家、青果店、パン屋、フードバンク、地域の団体、鎌倉市や鎌倉市社会福祉協議会からも支援を受けています。



衣料・日用品

地域の市民グループや個人から中古・新品の衣料や日用品の寄贈を受けています。寄贈品の整理や配布は地域のボランティアの支援を受けています。



(2) 医療の提供

入居者の多くは、在留資格の関係で健康保険に加入できず、医療費は全額自己負担となっています。必要に応じて、地域の医療機関での診療にスタッフが同行するなどのサポートを提供しています。医療費に関しては、当センターに寄せられる寄付や無料低額診療制度も活用しています。



医師の往診、医療相談会

週に1回、地元の医師がボランティアで往診してくださっています。さらに、月に1回、2名の医師と1名の鍼灸師による医療相談やマッサージを実施しています。また、小金井でも近隣の医師や看護師に電話相談を行い、必要に応じた往診や近隣病院の支援を受けています。

(3) 日本語学習支援

将来的な自立のため、入居者のニーズに応じて日本語の個人レッスンを実施しています。

(4) アルペファーム（農作業）

敷地内の畑で、毎週土曜日に農作業を行いました。近隣住民が中心となり、入居者と交流しながら野菜を育てました。

(5) 地域のイベントへの参加

- 2023/05 第55回慈善茶会（鎌倉青年会議所主催）
- 2023/05 みんなで鎌倉平和パレード
- 2023/05 鎌人いち場
- 2023/07 七夕飾りづくり（鎌倉社協）
- 2023/08 レインボーブリッジ難民を考える音楽と講演（小金井）
- 2023/09 鎌倉福祉まつり
- 2023/10 第65回鎌倉市民合唱祭
- 2023/10 アジアスポーツフェスティバル
- 2023/11 武蔵野はらっぱ祭り（小金井）
- 2023/12 あーすフェスタかながわ
- 2023/12 かまくら市民活動フェスティバル
- 2023/12 ハートメッセージ2023



2023/09 鎌倉福祉まつり



2023/12 あーすフェスタかながわ

(6) 近隣の居場所プログラム

月に1回開催される近隣の地域食堂「ふらっとカフェ in 二階堂」に参加しました。また、小金井では日本語教室や社会福祉協議会の手芸ボランティアに毎週参加しています。



2023/05 第55回慈善茶会（鎌倉青年会議所主催）



2023/10 アジアスポーツフェスティバル



2023/12 ハートメッセージ2023



(7) ウクライナ避難民支援

ウクライナでロシアによる軍事行動が2022年2月24日に開始され、多くの国内避難民や難民が発生しました。この影響で、日本にも2,606人(2023年3月末時点)が入国しています。アルペなんみんセンターは、公営住宅につながるまでの間、2名の避難民(2022年以降合計11人)を受け入れました。

神奈川県とかながわ国際交流財団とウクライナ避難民支援に関する連携協定締結

2023年5月、神奈川県と公益財団法人かながわ国際交流財団と連携協定を結び、神奈川県在住のウクライナ避難民の支援を県内の自治体と協働して行うことになりました。

日本財団助成事業「ウクライナ避難民の定住に向けた地域受入環境整備支援」の実施

日本財団の助成を受け、ウクライナ避難民への支援事業や交流事業を実施しました。

- ・ 相談、通訳事業
- ・ 行政機関、病院等への同行支援
- ・ 交流会の実施
- ・ 難民映画会の企画、実施
- ・ ウクライナ写真展の企画、実施

2024/2/28-3/3 MUJIcon ホテルメトロポリタン鎌倉

2024/3/5-19 鎌倉市役所

2024/3/15-24 鎌倉市中央図書館

2024/3/29-4/29 JICA 横浜



2023/7 ウクライナ交流会



2024/2 フラワーワークショップ



2024/2 ウクライナ写真展

(8) アフガニスタン難民支援

アフガニスタンで再びイスラム主義勢力タリバンが実権を握った2021年8月以来、混乱と迫害から逃れるため、800人以上のアフガニスタン人が日本に避難してきました。関係諸団体と連携をとりながら、必要な支援を行いました。

(9) アルペ小金井センター開設

2023年4月に、カトリック教会の女子修道院の一部を利用して、アルペ小金井センターを開設しました。

2 情報発信事業

(1) 国際理解教育事業（なんみんセミナー、オープンデー）

なんみんセミナー（オンラインを含む）全国の小中高校や大学、そして近隣の施設で実施しました。オンラインを含め、多様な形式で開催しました。また、オープンデーも開催し、施設見学や難民との交流の機会を提供しました。

2023年度	なんみんセミナー	45回開催	4,151人	参加
	オープンデー	47回開催	442人	参加
	合計	92回開催	4,593人	参加
2022年度	なんみんセミナー	55回開催	3,225人	参加
	オープンデー	17回開催	230人	参加
	合計	72回開催	3,455人	参加
2021年度	なんみんセミナー	20回開催	2,461人	参加
	オープンデー	3回開催	36人	参加
	合計	23回開催	2,497人	参加

関東学院大学横浜関内キャンパス開校記念
法学会主催講演会

「ウクライナ戦争と人権と平和」

～ウクライナ戦争と日本の難民受入～



世界中の平和を祈って 井上エ「ひまわり」

テーマ ウクライナ戦争と人権と平和～ウクライナ戦争と日本の難民受入～
日時 2023年10月12日（木）10:45～12:25
場所 関東学院大学横浜・関内キャンパス テンネー記念ホール（オンライン参加可能）
講師 NPO法人アルベなんみんセンター事務局長 有川憲治氏

申し込みはこちら 

連絡先 関東学院大学学務課 電話 045-306-9333（代表）
メール kannishomu@kanto-gakuin.ac.jp

2023/10 関東学院大学法学会主催講演会



2023/5 国際訪問団へのなんみんセミナー



オープンデーの様子

(2) ニュースレター、ホームページ、SNS 等での情報発信

1) ニュースレター「アルペ通信」

当団体の活動を広く伝えるため、ニュースレター「アルペ通信(A4 4ページ)」を発行し、配布しました。

第6号 (2023年 7月、27,000部)

第7号 (2023年 12月、27,500部)



2) ニュースレター「アルペだより」

当団体の日常の活動を広く伝えるため、ニュースレター「アルペだより(A4 1ページ)」を発行しました。

No. 8 (2023年 4月) No. 9 (2023年 7月)

No. 10 (2023年 10月) No. 11 (2024年 2月)



3) ホームページ

当団体のホームページにて、活動内容を詳細に紹介しました。また、定期的にイベントの募集や報告を掲載し、随時更新しています。



4) インスタグラム

難民の状況等の情報を発信しました。



5) SNS 配信、YouTube チャンネル

当団体の最新情報を発信するために、Facebook ページにて活動のアップデートを定期的に共有しました。同時に、YouTube チャンネル「アルペチャンネル」を通じて、動画形式での活動内容を広く配信しました。

6) パンフレット 活動紹介パンフレットをリニューアルし、47,000部発行しました。

7) 新聞広告 カトリック新聞に広告を掲載しました。



(3) 小冊子「難民ってどんな人？」発行

(公財) かながわ国際交流財団 かながわ民際協力基金助成事業

難民のことを広く伝えるために小冊子を作成発行しました。
A5 版カラー 28 ページ、3,000 部

- ・ 難民ってどんな人？
- ・ 日本に来る“難民”っているの？
- ・ “難民認定”されないとうなるの？
- ・ Case1 / 就労 「働きたくても働けない」を支える
- ・ Case2 / 健康 「病院にかかれぬ」を支える
- ・ Case3 / 出産 「子どもを産み、育てる」を支える
- ・ Case4 / 教育 「教育を受ける権利」を支える
- ・ Case5 / 地域 「人とのつながり」を支える
- ・ Case6 / ケア 「心の傷」をいやす
- ・ Case7 / 自信 「居場所と生きがい」をつくる
- ・ Case8 / 制度 市や県とつながり、しくみをつくる
- ・ Case9 / 展開 モデル化し、全国に広める
- ・ みんなで迎えたウクライナ避難民
- ・ 私には、何ができるの？



(4) 世界難民の日 2023 日本財団助成事業

毎年6月20日は、国連が定めた世界難民の日です。この日に東京と鎌倉で、日本とミャンマーの合作映画「僕の帰る場所」の上映会を行いました。この映画は、ミャンマー難民の状況や彼らが直面する課題を描いており、観客に対して難民問題への理解と共感を深める機会を提供しました。難民問題に関心を持つ多くの人々が集まり、意識を高めるための重要なイベントとなりました。



(5) なんみん映画会 *日本財団 助成事業

2023年10月にパレスチナ自治区ガザでイスラエルとパレスチナの軍事衝突が発生したことを受け、関連する映画上映と監督のトークイベントを行いました。さらに、日本で暮らすクルド難民を描いた映画も上映し、難民申請者が直面する状況について考える機会が提供しました。このイベントは、観客に対して難民問題への理解を深め、共感を促す場となりました。

2023年11月24日(金) 18:00～

「ガーダ パレスチナの歌」
古居みずえ監督のトーク

2023年12月8日(金) 18:00～

「ぼくたちは見た - ガザ・サムニ家の子どもたち」
古居みずえ監督のトーク

2024年1月13日(土) 18:00～

「マイスマールランド」



(6) メディア掲載

多くのメディアから取材を受け、難民の状況や当センターの活動を紹介する機会を得られました。

【新聞 6件】

「難民」との交流、各地で広がる 課題知るきっかけに
「難民の方に自慢の一杯を」人気ラーメン店が鎌倉で提供
「日本が取り残される」改正入管法成立 現場は？
SDGs活動の生徒、鎌倉の難民施設を訪問…湘南白百合
スリランカの元警護員 NPO施設で一緒に暮らす 地域と活発に交流
難民に心温まる珠玉の一杯を 人気ラーメンで住民と交流 鎌倉

2023/04/15 日本経済新聞
2023/05/25 東京新聞
2023/06/23 タウンニュース
2023/10/31 読売新聞
2023/11/03 中部経済新聞他 6紙
2023/11/25 毎日新聞

【雑誌 1件】

社会参画を通して難民認定申請者を支援

2023/11/01 月刊誌「WAM」

【ネットニュース 7件】

UNHCR 駐日事務所 鎌倉市視察報告
日本の行く末に暗澹たる気持ちに……「入管」に収容される人と逃げ続ける人の悲哀
NPO 法人アルペなんみんセンター小金井を本学学生が訪問
「日本が取り残される」改正入管法成立 現場は？
鎌倉市のアルペなんみんセンターの視察 難民の友に、難民と共に
講演会「ウクライナ戦争と人権と平和」が行われました
難民に心温まる珠玉の一杯を 人気ラーメンで住民と交流 鎌倉

2023/04/07 UNHCR 日本ニュース
2023/04/24 YAHOO ニュース
2023/06/08 白百合女子大学
2023/06/23 Yahoo ニュース
2023/08/31 選挙ドットコム
2023/11/15 関東学院大学
2023/11/25 YAHOO ニュース

【ラジオ 1件】

世界難民の日に寄せて

2023/06 鎌倉 FM

3 調査・研究事業

(1) 「鎌倉なんみん共生フォーラム」の取り組み

地域における難民の受け入れと支援に関する連携をはかるため、市民グループ、社会福祉協議会、社会福祉施設、市議会議員、メディア関係者などが集い、学習会（2回）、なんみん映画会（3回）を行いました。基調講演はオンラインでも配信し、全国から参加がありました。

■ 学習会の開催（公財）かながわ国際交流財団 かながわ民際協力基金助成事業

第3回 2023年7月25日（火）14:00～16:00

カトリック雪ノ下教会レベックホール

「難民との地域共生

～難民・移民フェスを立ち上げて～

講師：高谷 幸さん（難民・移民フェス実行委員会）



第4回 2023年9月18日（月）14:00～16:00

カトリック雪ノ下教会レベックホール

「増え続ける世界の難民と私たちの役割」

講師：二村 伸さん（ジャーナリスト、NHK 専門解説委員）



■ なんみん映画会の開催（P8 参照） 日本財団助成事業



(2) 地域通貨「クルッポ」を活用した地域とのつながり

鎌倉市が運営する地域通貨「クルッポ」の加盟スポットとして、クルッポを使って体験できるプログラムを提供しました。また、インスタグラムへの感想や質問を送った方にクルッポを差し上げるなど、双方向のコミュニケーション手段として活用しました。



(3) 国内外の難民支援団体とのネットワーク

■ NPO 法人 移住者と連帯する全国ネットワーク

国内の難民移民支援ネットワーク団体「移住者と連帯する全国ネットワーク」に参加し、日本における難民の諸問題に関する情報収集および関係団体との連携強化に努めました。



移住連省庁交渉に参加
2023年11月 参議院議員会館

■ NPO 法人 なんみんフォーラム

～収容代替措置 (ATD) の受け皿としての役割

国内の難民支援ネットワーク団体「なんみんフォーラム」に参加し、日本における難民の諸問題に関する情報収集および関係団体との連携強化に努めました。

また、法務省、日本弁護士連合会、なんみんフォーラムが2012年から実施している「日本の空港において難民としての庇護を求めた者に係る住居の確保等に関する事業」の受け皿としての役割が広がってきました。



日本の各空港に貼られている
難民申請に関する情報ポスター

■ JCAP Migrants and Refugees Network への参加

JCAP Migrants and Refugees Network (アジア地域の移民難民支援団体のネットワーク) のオンライン会議に定期的に参加し、情報交換、共有を行いました。また、以下の国際会議にスタッフを派遣しました。

2023年11月「ミャンマーフォーラム」インドネシア

2024年3月「ネットワーク会議」台湾



オンラインのネットワーク会議

ミャンマー難民の現地視察 (タイ・メーソート)

2021年2月にタイで国軍によるクーデターが発生し、その結果、290万人以上の国内避難民が生まれ、1800万人以上が人道支援を必要とする状況となりました。また、120万人以上が隣国へ逃れ、難民として避難生活を送っています (UNHCR、2024年4月)。

このような状況を受け、JCAP ネットワークはミャンマー支援を協働で行うことを決定し、2024年2月にタイのメーソートでミャンマー難民の現地視察を行いました。視察後も、ネットワーク内の諸団体と情報を共有しながら、どのような支援ができるかを継続的に検討していく予定です。この取り組みは、ミャンマー難民に対する具体的な支援策を策定し、実行するための重要な一歩となります。



JCAP Migrants and Refugees Network 参加者と一緒に
2024年3月台湾・輔仁大学



ミャンマー難民キャンプ 2024年3月タイ・メーソート